

令和4年5月18日

学習成果カルテとディプロマポリシー評価表（ルーブリック）による
学習成果の検証について
（自己点検評価・改善委員会）

IR室

学生の学習成果を確認するため、令和3年度の2年生について「学習成果カルテ」により、1年生についてはディプロマポリシー評価表（ルーブリック）により検証した結果を報告いたします。

記

1. 事情

- (1) 現在大学に求められている「教育の質保証」について、文科省では以下の対応を求めている。

「学生本人の学修成果の把握や学修の動機付けのために、単位認定、学位授与、卒業判定とは別に、以下のいずれかの手法を用いて学修成果の把握を行い、学生へのフィードバック及びその結果を大学等の教育活動の見直しに活用しているか」

- ①外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定（アセスメントテスト）
- ②学修評価の観点・基準を定めたルーブリックの活用
- ③その他（アンケート調査や学修ポートフォリオなど）

条件としては、以上の方法について、「在学中に2回以上実施することを機関決定しており、かつ基準時点の期間内（前年10月1日～翌年10月31日）に1回以上実施していること。」学生本人が自らの学修成果を把握することを前提としているので、無記名のテストや調査等は対象外。

- (2) 本学では①の外部の標準化されたテストとしてPROGを採用し、入学直後、1年生終了時点（2年生目前）、2年生の卒業目前の計3回の実施を機関決定している。
また、②のルーブリックを利用した個々の学生との面接は年2回、在学中4回を目途として実施することを機関決定している。
- (3) 令和2年度入学生までは社会人基礎力と専攻ごとに定めた学習面の評価を行う「学習成果カルテ」を利用して学生への指導にあたっていた。各領域のレベルを数値化していたが、レベルの具体像が明示されておらず、若干抽象的かつ主観的評価が強い傾向があった。

- (4) 令和3年度入学生からは、ディプロマポリシーへの到達度を具体的に詳細に設定、かつ数値で分かりやすく表し、極力客観的の評価が行えるよう「ディプロマポリシー評価表（ループリック）」を定め、システム化した。
- (5) 以上のことから、今後は個々の学生への指導にあたり、外部の客観的テストであるPROGとディプロマポリシーの到達度を表すループリックの両方を用いてあたることになる。小規模短期大学の強みである「丁寧な指導」を徹底して行く所存。

2. 分析方法

(1) 2年生

1年次面談時と2年次面談時の学習成果カルテ（社会人基礎力）を学生ごとに比較し、専攻ごとに数値の伸び（成長度合い）を表・グラフで表した。

社会人基礎力の構成要素は、「マナー、ホスピタリティ」、「コミュニケーション」、「課題解決力」、「計画性」、「主体的行動力」の5つで、評価は1~4で表記する。

4が最も高い評価で、本学としては卒業までに3のレベルまでの到達を求めている。

(2) 1年生

「ディプロマポリシー評価表（ループリック）」活用の初めての学年。1年生の6月に、学習成果を確認するために提出する第3回目の振返りのループリックと1年生最後の2月に実施する6回目のループリックを比較した。

(注) 令和3年度入学生は、1年生の時点で年間6回、学生からの振返りのコメントを受け、教員が学生にフィードバックコメントを返した。2年生では年間4回の振返りのコメントを受けてフィードバックコメントを返す予定。ディプロマポリシー評価表（ループリック）を利用して面談を前期1回、後期1回、計年間2回（学生によっては3回）実施。

ループリックはディプロマポリシー評価表でDP1（知識・技能）、DP2（主体的行動力）、DP3（課題解決能力）、DP4（多様性受容力）、DP5（日本の伝統文化理解力）についてレベル1~6まで詳細に条件を規定し、卒業までに5のレベルまでの到達を求めている。

3. 分析結果

(1) 2年生

○美容デザイン専攻では、「主体的行動力」を除き全ての項目で伸びが確認された。特に「マナーホスピタリティ」と「コミュニケーション」の伸びは著しかった。反面、「主体的行動力」について1年次の自己評価が異常に高い学生がいた（評価4）ことがゼミ教員へのヒアリングで判明した。結果、2年次の評価の方が低くなり、伸びがマイナス表記されるということになった。1年生の初期は受験勉強から解放されて気分が高揚しており、自己評価が高くなる学生がいたと考えられる。

そういう意味で、カルテの欠点（主観的評価が強い）が出たとも言え、今後はルーブリックの活用により、かかる事態は解消されるものと思料。

- エステティック専攻では、5つの項目全てで平均的に伸びており、学生の成長が実感される。
- 国際美容コミュニケーション専攻でも、全項目順調に伸びている。特に「課題解決能力」と「マナーホスピタリティ」の伸びが著しい。

(2) 1年生

検証する期間は約半年間と極めて短期間であるが、数値の伸びは0.17～0.46。少しづつではあるが、学生が成長していることが感じられる。

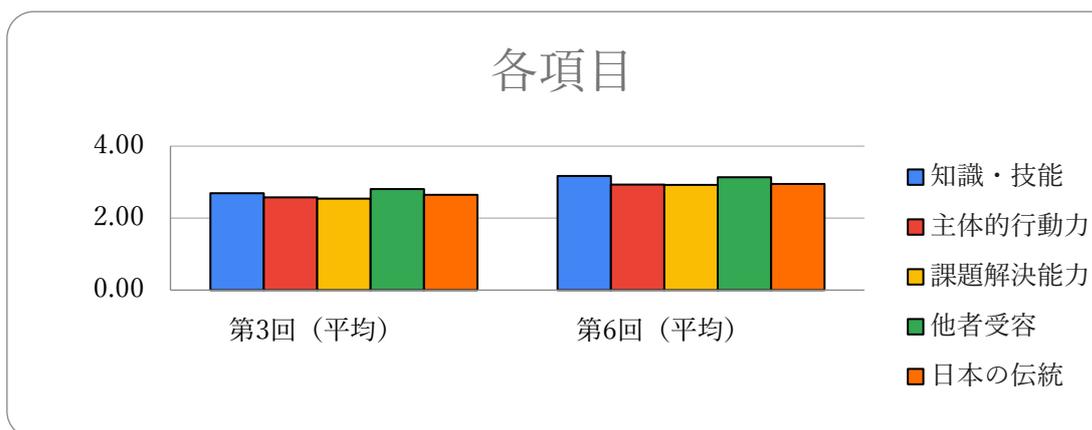
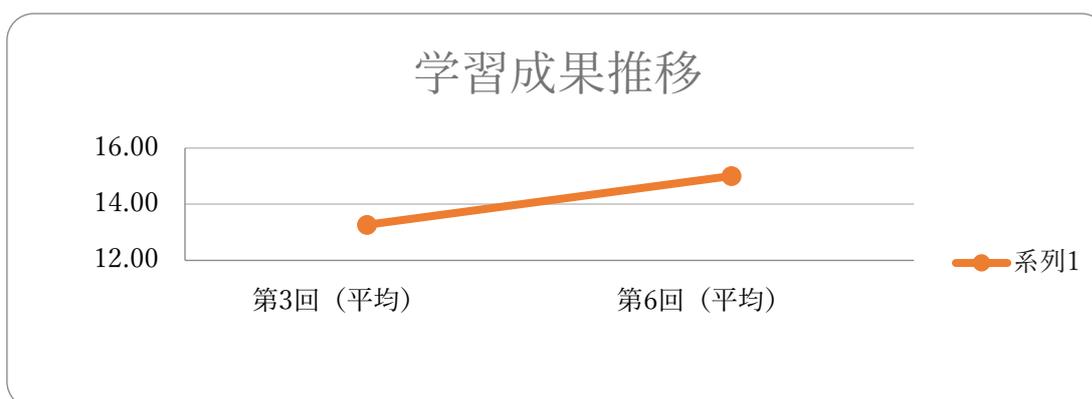
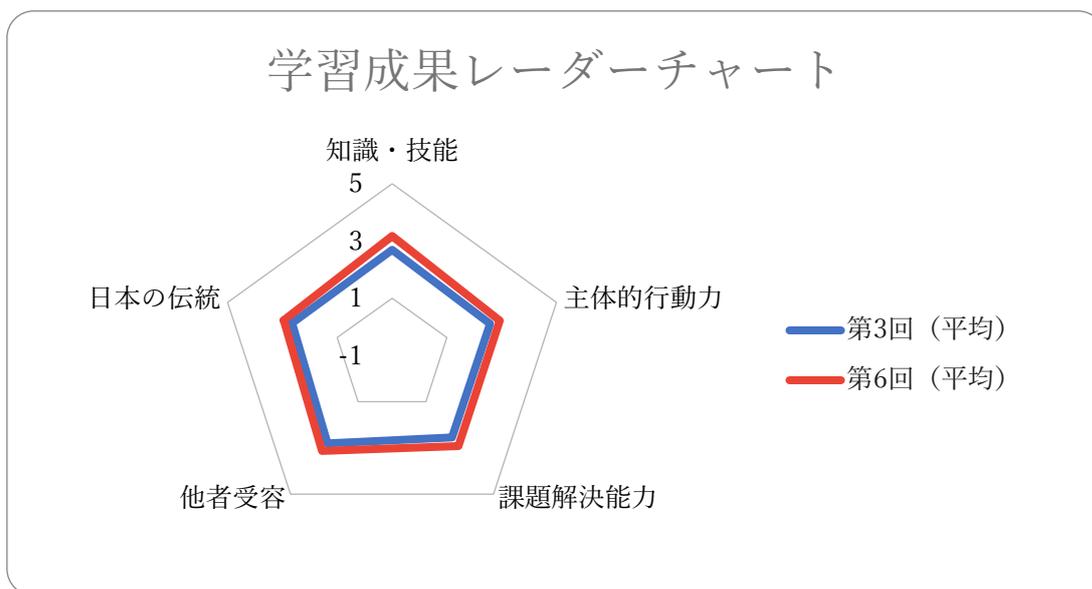
特に「知識・技能」は平均で0.46の伸びであり、専門教育が効果的であったと言える。丁寧に指導いただいた先生方に感謝申し上げたい。

4. その他・意見

- (1) ディプロマポリシー評価表(ルーブリック)を利用した面談は学生にも好評である。学位授与方針であるディプロマシーについて、学生自身がどこまで到達しているのか具体的に見えることで、勉学・生活・将来への意欲が湧いてくるとの声が聞こえる。
- (2) ディプロマポリシー評価表(ルーブリック)の導入により、より客観的な視点で学生を指導できるシステムが出来上がった。今後は学生へより丁寧な指導を行い、長所は伸ばし、不足している点については補って、学生自身が自分の成長を実感でき、自信を持って社会に巣立って行ける教育体制の構築を目指す。

以上

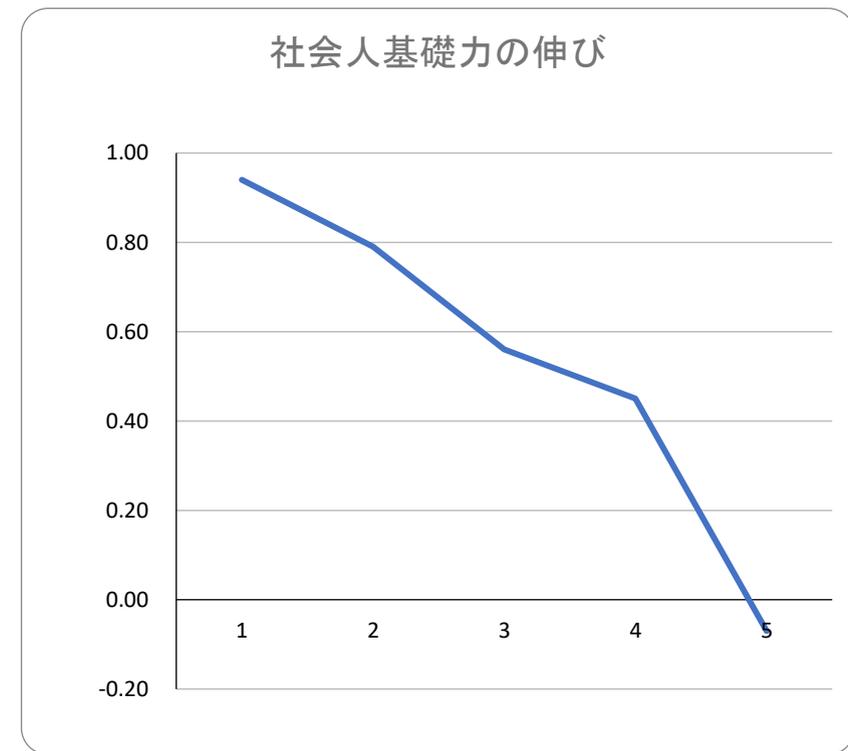
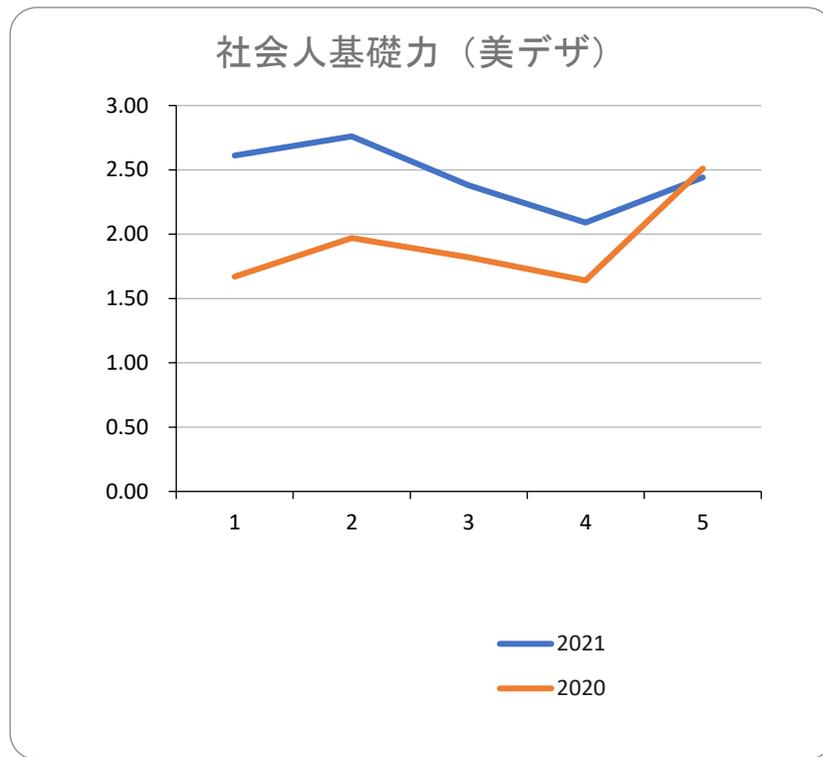
令和3年度入学生学習成果の推移（1年次）



	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	他者受容	日本の伝統	総合
第3回（平均）	2.69	2.58	2.54	2.81	2.65	13.27
第6回（平均）	3.17	2.93	2.92	3.13	2.95	15.01

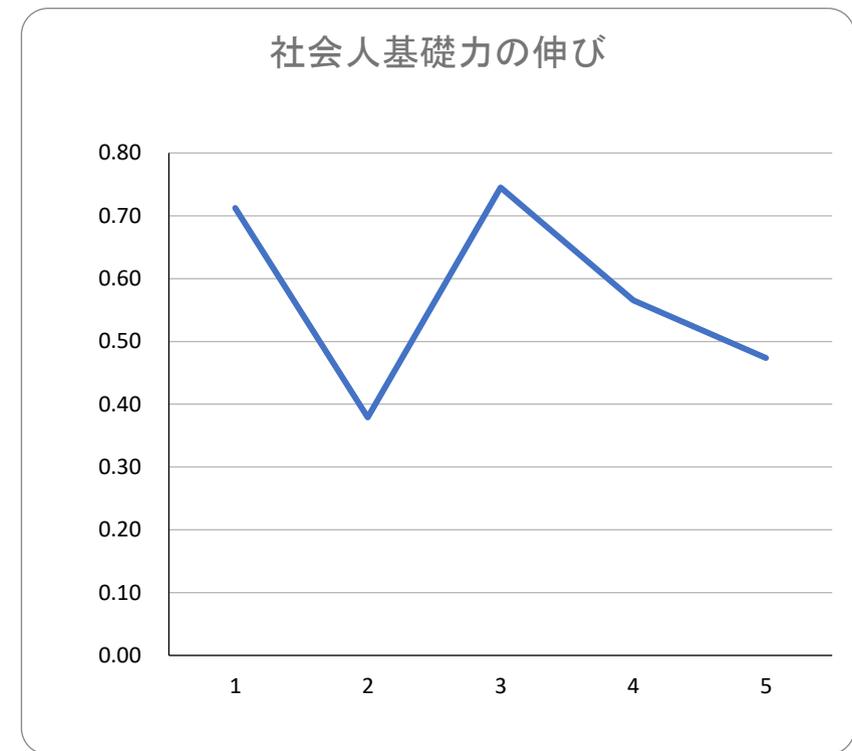
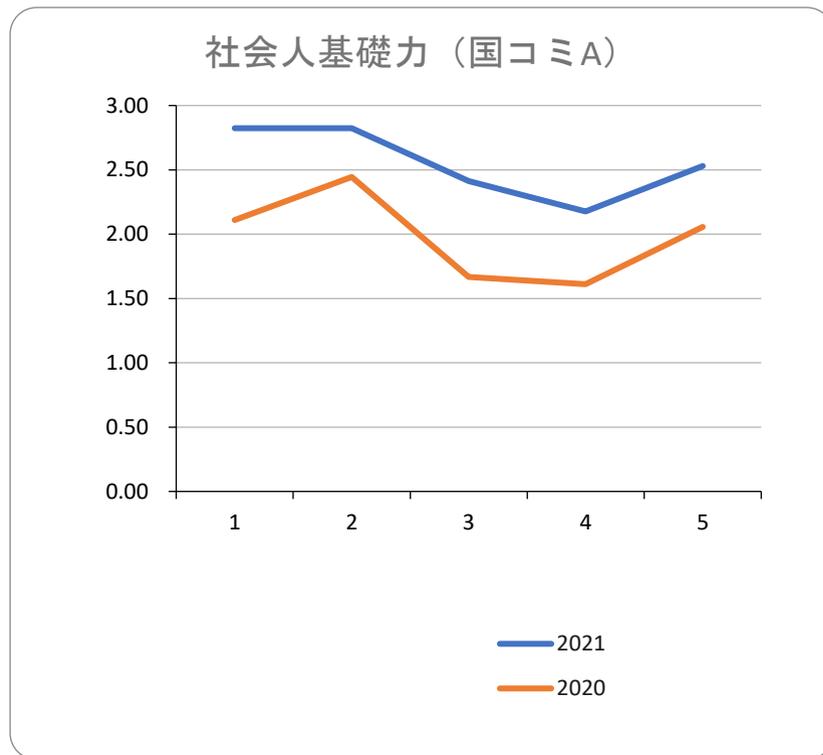
社会人基礎力 美デザ

	2020年					2021年					差異				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力
平均値	1.67	1.97	1.82	1.64	2.51	2.61	2.76	2.38	2.09	2.44	0.94	0.79	0.56	0.45	-0.07



社会人基礎力 国コミA

	2020年					2021年					差異				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力
平均値	2.11	2.44	1.67	1.61	2.06	2.82	2.82	2.41	2.18	2.53	0.71	0.38	0.75	0.57	0.47



社会人基礎力 エステ

	2020年					2021年					差異				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力	マナー ホスピ タリ ティ	コミュ ニケー ション	課題解 決力	計画性	主体的 行動力
平均値	2.13	1.75	1.94	1.69	1.94	2.63	2.13	2.31	2.00	2.44	0.50	0.38	0.38	0.31	0.50

